

各科学オリンピック団体からの報告資料

目次

1. 数学オリンピック	4
2. 物理オリンピック	12
3. 化学オリンピック	20
4. 情報オリンピック	22
5. 生物学オリンピック	24
6. 地理オリンピック	28
7. 地学オリンピック	34

1. 数学オリンピック

IMO 数学オリンピック

年度		H25年度 実績 (2013年)	H26年度 実績 (2014年)	H27年度 実績 (2015年)	H28年度 予定 (2016年)
国際大会	開催地	コロンビア(7月)	南アフリカ(7月)	タイ(7月)	香港(7月)
	参加国・地域数	97	101	104	
	参加者数	528名	560名	577名	
	日本代表 成績 (6名)	銀 6	金 4 銀 1 銅 1	銀3 銅3	
	国別順位※1	11位	5位	22位	
	研修・教育	<ul style="list-style-type: none"> ●春の合宿(24名) ●強化合宿(6名) ●通信添削(21名) ●直前学習会(6名) ●夏季セミナー(35名) 	<ul style="list-style-type: none"> ●春の合宿(24名) ●強化合宿(6名) ●通信添削(13名) ●直前学習会(6名) ●夏季セミナー(26名) 	<ul style="list-style-type: none"> ●春の合宿(27名) ●強化合宿(6名) ●通信添削(17名) ●直前学習会(6名) ●夏季セミナー(28名) 	<ul style="list-style-type: none"> ●春の合宿(25名) ●強化合宿(6名) ●通信添削(20名) ●直前学習会(6名) ●夏季セミナー(30名)
国内大会	選抜試験 参加者	25名(3月)	2015年3月	2016年3月	2017年3月
	本選 参加者	217名(2月) <全国15会場>	176名(2月) <全国8会場>	196名(2月) <全国16会場>	200名(2月) <全国15会場>
	日本数学オリンピック 予選 参加者	3, 200名(1月) <全国67会場>	3, 267名(1月) うち女子の人数 512名 <全国71会場>	3, 389名(1月) うち女子の人数 543名 <全国72会場>	3, 500名(1月) うち女子の人数580名 <全国75会場>
広報・普及啓発 その他活動	<ul style="list-style-type: none"> ●学校訪問(東北3県) ●地区別研修会(西日本地区) ●International Mathematics Competitionへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校訪問(北海道) ●地区別研修会(東日本地区) ●European Girls' Mathematical Olympiadsへの参加 ●International Mathematics Competitionへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ●地区別研修会(西日本地区) ●European Girls' Mathematical Olympiadsへの参加 ●International Mathematics Competitionへの参加 	<ul style="list-style-type: none"> ●学校訪問(中国地区) ●地区別研修会(東日本) ●European Girls' Mathematical Olympiadsへの参加 	

※1: 国際大会では個人成績のみが公表され、国別順位については公式な発表がありません。個人成績をもとに独自に作成した国別順位であり、公式資料ではありません。



数学オリンピック財団

数学オリンピック

公益財団法人 数学オリンピック財団

理事長 鈴木 晋一

2016.5.20.

数学オリンピック 実績と計画

H26実績

H27実績

H28計画

国際大会

開催地

南アフリカ

タイ

香港

参加国数

101ヶ国・地域

104ヶ国・地域

未定

メダル
(代表6名)

金 4
銀 1
銅 1

金 0
銀 3
銅 3

金 2
銀 2
銅 2 以上

順位

5位

22位

10位以内

一次参加者

3,200人

3,267人

3,389人

会場数

67

71

72

強化訓練

春の合宿(24名)
強化合宿(10名)
通信添削(13名)
夏季セミナー(26名)

春の合宿(24名)
強化合宿(10名)
通信添削(17名)
夏季セミナー(28名)

春の合宿(27名)
強化合宿(6名)
通信添削
夏季セミナー

普及啓発

Asian Pacific Mathematics Olympiad への参加
European Girls' Mathematical Olympiad への参加
「財団通信」の発行(年2回)
「math OLYMPIAN」の発行(年1回)

国内大会

★2016年 第26回 JMO 第14回JJMO

・1/11 予選 3,389 名 2,812 名



・2/11 本選 196 名 102 名



22 名 5 名

・3/23~28



春の合宿

27 名



IMO日本代表選手 6 名

IMO（国際数学オリンピック）

- ・ **第1回大会 1959年 ルーマニアで開催**
 < 7カ国 52名参加 >
- ・ **第31回IMO1990中国大会(北京) 日本初参加**
- ・ **第44回IMO2003 日本大会（東京）**
 < 82カ国 457名参加 >
- ・ **第50回IMO2009 ドイツ大会（ブレーメン）**
 < 104カ国 565名参加 >
- ・ **第56回IMO2015 タイ大会（チェンマイ）**
 < 104カ国 577名参加 >

普及啓発活動

★各種国際大会への参加

- ・3月: アジア太平洋数学オリンピック (APMO)
- ・4月: ヨーロッパ女子数学オリンピック (EGMO)

★夏季セミナー

2016年 8/23～29

★広報活動

「財団通信」

「math OLYMPIAN」、 「JUNIOR math OLYMPIAN」



表彰制度

★Aランク賞

JMO予選合格者(Aランク者)に、
表彰状と楯を送付して表彰する。

★地区表彰

全国を15に地区割りをし、各地区応募者の
約1割の人数に表彰状を送付し表彰する。

★JMO・JJMO表彰式 <本選合格者の表彰>

JMO:川井杯・金賞、銀賞、銅賞、優秀賞

JJMO:金賞、銀賞、銅賞

2. 物理オリンピック

IPhO 国際物理オリンピック

年度		H25年度 実績 (2013年)	H26年度 実績 (2014年)	H27年度 実績 (2015年)	H28年度 予定 (2016年)
国際大会	開催地	デンマーク(7月)	カザフスタン(7月)	インド(7月)	スイス・リヒテンシュタイン(7月)
	参加国・地域数	81	85	82	
	参加者数	374名	383名	382名	
	日本代表 成績 (5名)	銀 2 銅 3	銀 4 銅 1	金 1 銀 2 銅 2	
	国別順位※1	23位	19位	12位	
	研修・教育	<ul style="list-style-type: none"> ●通信添削(14名) ●冬合宿(14名) ●春合宿(13名) ●実験指導(5名) 	<ul style="list-style-type: none"> ●通信添削(11名) ●冬合宿(11名) ●春合宿(11名予定) ●実験指導(5名予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ●通信添削(10名) ●冬合宿(10名) ●春合宿(8名予定) ●実験指導(5名予定) 	
国内大会	チャレンジファイナル参加者	13名(3月)	11名(3月予定)	8名	
	第2チャレンジ参加者	100名(8月) <筑波大学ほか>	97名(8月) <岡山大学ほか>	98名(8月) <つくば市>	(8月) <東京理科大学>
	全国物理コンテスト「物理チャレンジ」第1チャレンジ参加者	1,222名(6月) うち女子の人数 167名 <全国76会場>	1,554名(7月) うち女子の人数 239名 <全国80会場>	1,662名(7月) うち女子の人数 266名 <全国82会場>	
	広報・普及啓発 その他活動	<ul style="list-style-type: none"> ●ポスター、募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会・科学館に配布予定 ●プレチャレンジ開催予定 ●ステップアップアップ研修実施(35名) 	左記に加え、 <ul style="list-style-type: none"> ●ジュニアチャレンジの開催 ●IPhOテキストの作成 ●第1チャレンジ(理論・実験課題レポート)の成績分析 	左記に加え、 <ul style="list-style-type: none"> ●チャレンジガイドの作成 ●過去10年間の参加者に対する追跡調査の準備 	

※1: 国際大会では個人成績のみが公表され、国別順位については公式な発表がありません。個人成績をもとに独自に作成した国別順位であり、公式資料ではありません。

応募から国際物理オリンピックまで

- 応募者数：約2000名
- 実験課題レポート、理論試験（7月） 約1700名
- 第2チャレンジ（3泊4日、8月） 約100名
- 国際物理オリンピック 日本代表候補者研修 約10名
（9月 秋合宿、12月 冬合宿、3月 春合宿）
- 国際物理オリンピック 日本代表研修 5名
（5月 実験研修、7月 直前研修）
- 国際物理オリンピック（7月）
（生徒5名、リーダー等6名）

物理チャレンジの効果

- 物理について深く語り合える相手が身近にいない子供達が、全国から集まる物理好きの仲間と交流・切磋琢磨し、コンテスト終了後は楽しく語りあう機会となる。
- 第一線の研究者・研究現場と触れ、優れた課題に挑戦し、物理への関心が「ホンモノ」となる。
- 多くの物理好きの仲間や第一線の研究者等との交流から、自身の具体的な将来像を持つきっかけとなる。
- 埋もれた才能・好奇心を掘り起こして、伸ばす。

国際物理オリンピックの効果

○ 生徒が変わる

- ◇ 世界のレベルを知る
- ◇ 世界の同世代との生涯続くネットワークの構築
- ◇ 異文化体験
- ◇ 国際感覚をもつ科学・技術のリーダーとして日本を牽引する人財の卵となる

○ リーダーが変わる

- ◇ 世界の教育のレベルと多様性を知る
- ◇ 物理教育についての国際ネットワークの構築

2005年からの 人材育成・普及啓発活動

○ 過去10年間の参加者

- ◇ 第1回全国物理コンテスト（2005年）参加者のうち、当時の高等学校3年生は、2016年博士課程修了の年齢。
- ◇ 物理学を深めるとともに、他分野との境界領域に研究を広げている。
- ◇ 小中高生に対する科学コミュニケーション活動を積極的に行っている。

○ その他の啓発活動

- ◇ 生徒・教員対象の「プレチャレンジ」
- ◇ 小学生対象「ジュニアチャレンジ」

今後の課題

- **人的課題**：事業を担っているのは、主として高等学校、大学等の教員であるため、本務との兼ね合い（本務先の理解と支援）

本事業を本務の一部（公務）として認める環境をつくる！

- **経済的課題**：財政的基盤が不安定

自助努力と共に、広く社会の理解と経済的支援を求める！

3. 化学オリンピック

IChO 国際化学オリンピック

年度		H25年度 実績 (2013年)	H26年度 実績 (2014年)	H27年度 実績 (2015年)	H28年度 予定 (2016年)
国際大会	開催地	ロシア(7月)	ベトナム(7月)	アゼルバイジャン(7月)	ジョージア(7月)
	参加国・地域数	73	75	75	
	参加者数	291名	291名	292名	
	日本代表 成績 (4名)	銀 4	金 1 銀 2 銅 1	金 2 銀 2	
	国別順位※1	14位	15位	7位	
	研修・教育	●選抜試験(22名) ●選抜合宿(14名) ●実験訓練合宿(4名)	●選抜試験(22名) ●選抜合宿(14名) ●実験訓練合宿(4名)	●選抜試験(20名。1名辞退) ●選抜合宿(10名)(予定) ●実験訓練合宿(4名)	●選抜試験(22名) ●選抜合宿(11名) ●実験訓練合宿(6名)
国内大会	最終選抜 参加者	2014年3月(14名)	2015年3月(10名)	2016年3月(11名)	2017年3月(10名程度)(予定)
	一次選抜 参加者	2014年1月(22名)	2015年1月(21名)	2016年1月(22名)	2015年1月(20名程度)(予定)
	二次選考 参加者	77名(8月) <東北大学>	74名(8月) <東北大学>	70名(8月) <名古屋大学>	80名程度(8月) <名古屋大学>
	化学グランプリ 一次選考 参加者	3,481名(7月) <全国61会場>	3,416名(7月) うち女子の人数 964名 <全国64会場>	3,565名程度(7月) うち女子の人数 945名 <全国66会場>	3,500名程度(7月)(予定) <全国66会場>
広報・普及啓発 その他活動	●過去問集の配布 ●PRパンフの作成・配布	●過去問集の配布 ●PRパンフの作成・配布 ●イベントでのブース出展	●過去問集の配布 ●PRパンフの作成・配布 ●イベントでのブース出展	●過去問集の配布 ●PRパンフの作成・配布 ●イベントでのブース出展	

※1: 国際大会では個人成績のみが公表され、国別順位については公式な発表がありません。個人成績をもとに独自に作成した国別順位であり、公式資料ではありません。

4. 情報オリンピック

IOI 国際情報オリンピック

年度		H25年度 実績 (2013年)	H26年度 実績 (2014年)	H27年度 実績 (2015年)	H28年度 予定 (2016年)
国際大会	開催地	オーストラリア(7月)	台湾(7月)	カザフスタン(7月)	ロシア(8月)
	参加国・地域数	77	81	83	約80
	参加者数	299名	311名	322名	約320名
	日本代表 成績 (4名)	金 1 銀 2	金 1 銀 2 銅 1	金 3 銅 1	
	国別順位※1	11位	11位	5位	
	研修・教育	<ul style="list-style-type: none"> ●通信教育(オンラインコンテスト) ●APIO参加(7会場70名) ●派遣直前合宿研修(4名) ●春季合宿研修(20名) 	<ul style="list-style-type: none"> ●通信教育(オンラインコンテスト) ●APIO参加(5会場29名) ●派遣直前合宿研修(4名) ●春季合宿研修(約20名) 	<ul style="list-style-type: none"> ●通信教育(オンラインコンテスト) ●APIO参加(6会場59名) ●派遣直前合宿研修(4名) ●春季合宿研修(20名) 	<ul style="list-style-type: none"> ●通信教育(オンラインコンテスト) ●APIO参加(6会場60名) ●派遣直前合宿研修(4名) ●春季合宿研修(20名)
国内大会	春季トレーニング合宿 (日本代表選手選考) 参加者	20名(3月)	20名(2015年3月)	20名(2016年3月)	約20名
	本選 参加者	77名(2月) ＜国立オリンピック記念 青少年総合センター＞	78名(2月) ＜国立オリンピック記念 青少年総合センター＞	76名(2016年2月) 茨城県つくば国際会議場	約80名
	日本情報オリンピック 予選 参加者	998名(12月) ＜参加学校196校＞	1121名(12月) うち女子の人数 93名 ＜参加学校217校＞	998名(2015年12月) うち女子の人数 92名 ＜参加学校197校＞	約1,300名
広報・普及啓発 その他活動		<ul style="list-style-type: none"> ●指定校制(25校) ●夏季セミナー(4泊5日26名) ●地域密着学習支援講習会(8箇所) 	<ul style="list-style-type: none"> ●指定校制(27校) ●夏季セミナー(4泊5日26名) ●地域密着学習支援講習会(8箇所) 	<ul style="list-style-type: none"> ●指定校制(27校) ●夏季セミナー(4泊5日約25名) ●地域密着学習支援講習会(8箇所) 	<ul style="list-style-type: none"> ●指定校制(27校) ●夏季セミナー(4泊5日約25名) ●地域密着学習支援講習会(8箇所)

※1: 国際大会では個人成績のみが公表され、国別順位については公式な発表がありません。公開されている競技結果(メダル獲得数)を元に情報オリンピック日本委員会が独自に作成した順位です。

5. 生物学オリンピック

IBO 国際生物学オリンピック

年度		H25年度 実績 (2013年)	H26年度 実績 (2014年)	H27年度 実績 (2015年)	H28年度 予定 (2016年)
国際大会	開催地	スイス(7月)	インドネシア(7月)	デンマーク(7月)	ベトナム(7月)
	参加国・地域数	62	61	61	
	参加者数	240名	239名	239名	
	日本代表 成績 (4名)	金 1 銀 3	金 1 銀 3	金 1 銀 2 銅 1	
	国別順位※1	8位	9位	10位	
	研修・教育	<ul style="list-style-type: none"> ●特別教育3回(6名) ●個別教育(6名) ●通信教育(15名) ●冬期特別セミナー(15名) 	<ul style="list-style-type: none"> ●特別教育3回(6名) ●個別教育(6名) ●通信教育(15名) ●冬期特別セミナー(15名) 	<ul style="list-style-type: none"> ●特別教育3回(6名) ●個別教育(5名) ●通信教育(15名) ●冬期特別セミナー(15名) 	<ul style="list-style-type: none"> ●特別教育3回(予定) ●個別教育(予定) ●通信教育(予定) ●冬期特別セミナー(予定)
国内大会	代表選抜参加者	15名(3月)	15名(2015/3/21)	15名(2016/3/21)	2016年3月予定
	本選参加者	79名(8月) <広島大学>	80名(8月) <筑波大学>	8月20日~23日 <広島大学>	8月19日~22日 <筑波大学>
	日本生物学オリンピック 予選参加者	3,149名(7月)	3,265名(7月) うち女子の人数 1,694名 <全国102会場>	3,433名(7月) うち女子の人数 1,809名 <全国103会場>	7月17日 <全国の会場>
広報・普及啓発 その他活動	<ul style="list-style-type: none"> ●ポスター、募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会・科学館に配布 ●高校向けフォーラムの開催 ●教育委員会・学校へ訪問説明 ●同窓会との交流 ●日本代表者の表彰式(8月本選会場にて) ●サイエンスカフェ(本選参加者向け) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ポスター、募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会・科学館に配布 ●高校向けフォーラムの開催 ●教員等を対象とした研修会 ●同窓会との交流 ●日本代表者の表彰式(8月本選会場にて) ●サイエンスカフェ(本選参加者向け) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ポスター、募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会・科学館に配布(予定) ●高校向け講座への講師派遣(4回) ●教員等を対象とした研修会等への講師派遣(3回) ●同窓会との交流、代表団への参加 ●日本代表者の表彰、本選参加者との交流(8月広島大学) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ポスター、募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会・科学館に配布(予定) ●高校向けフォーラムの開催、講師派遣(予定) ●教員等を対象とした研修会開催、講師派遣(予定) ●同窓会との交流(予定) ●日本代表者の表彰、本選参加者との交流(8月本選会場にて予定) 	

※1:国際大会では個人成績のみが公表され、国別順位については公式な発表がありません。個人成績をもとに独自に作成した国別順位であり、公式資料ではありません。

国際生物学オリンピック日本委員会 1年間の活動

第26回国際生物学オリンピック(IBO2015)

- 第1回特別教育(3.28-30)
中央大学
- 第2回特別教育(5.3-5)
お茶の水女子大学
- 第3回特別教育(6.13-14)
科学技術館
- 個別教育(5~7月)
(広島大学、お茶の水女子大学、東京農工大学、
甲南大学、神戸大学、基礎生物学研究所、
分子科学研究所、福島大学、福島医科大学)
以上、参加6名(日本代表・次点)
- 国際大会(於:デンマーク・オーフス)参加(7.12-19)



代表全員がメダル(金1、銀2、銅1)

日本生物学オリンピック2015

- 予選(7.19)全国103会場 参加3,433名
上位5%(172名)に優秀賞、続く上位5%(175名)に優良賞授与
- 本選(8.20-23)広島大学 参加80名
金賞10名、銀賞10名、銅賞20名
日本代表候補15名を選抜



- 冬期特別セミナー(12.23-25)東京大学
参加15名(日本代表候補)



- 代表選抜試験(2016.3.21)

代表4名・次点者2名を選抜。参加者15名には「ファイナリスト特別賞」

第27回国際生物学オリンピック(ベトナム)へ

6. 地理オリンピック

iGeo 国際地理オリンピック

年度		H25年度 実績 (2013年)	H26年度 実績 (2014年)	H27年度 実績 (2015年)	H28年度 予定 (2016年)
国際大会	開催地	日本・京都(7・8月)	クラクフ・ポーランド(8月)	トヴェリ・ロシア(8月)	北京・中国(8月)
	参加国・地域数	32	36	40	
	参加者数	126名	144名	159名	
	日本代表 成績 (4名)	銀 1 銅 1	銀 1	銀 3 銅 1	
	国別順位※1	15位	15位	5位	
	研修・教育	●強化合宿6月	●強化合宿6月/7月	●強化合宿6月/7月	●強化合宿6月/7月
国内大会	日本代表候補	4名(3月)	4名(3月)	4名(3月)	2017年3月決定予定
	第二次選抜 参加者	122名(2月) <全国12会場>	142名(2月) <全国12会場>	2016年2月 <全国11会場>	2017年2月実施予定
	科学地理オリンピック 日本選手権 第一次選抜 参加者	1100名(1月) <全国の会場>※	1337名(1月) うち女子の人数 29% <全国40会場>※4	1409名(1月) うち女子の人数 30% <全国44会場>※4	2017年1月実施予定
	広報・普及啓発 その他活動	●ポスター、募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会に配布 ●地理学関連学会での報告・広報 ●科学の甲子園での広報	●ポスター、募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会に配布 ●地理学関連学会での報告・広報 ●科学の甲子園での広報	●ポスター、募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会に配布 ●地理学関連学会での報告・広報 ●科学の甲子園での広報	●ポスター、募集要項を全国の高校・都道府県教育委員会に配布 ●地理学関連学会での報告・広報 ●科学の甲子園での広報

※1: 国際大会では個人成績のみが公表され、国別順位については公式な発表がありません。個人成績をもとに独自に作成した国別順位であり、公式資料ではありません。

※2: 2012年以降毎年開催の方向で検討・調整中。

※3: H25年度より、第2次選抜(2014. 2. 23)で約10人を選抜し、その後、第3次選抜(2014. 3. 16)を実施し、代表選手4人を選考することになった。

※4: 一般会場と特例校会場を含む。

コンテスト名：科学地理オリンピック日本選手権

1. 国内大会での成果

	27年度 実績	26年度 実績	前年比(%)
申込者数	1561名	1511名	103%
参加者数	1409名	1337名	105%
女子参加比率	30%	29%	—
参加学校数	158校	150校	105%
試験会場数	44ヶ所	40ヶ所	110%
その他の特筆すべき成果	地理オリンピックに関心をもつ先生方がさらに増え、それに伴い参加者数・参加校数が昨年よりも増加した。また、これまで一般会場が設置されなかった前橋、出雲、長崎、熊本の4都市で一次選抜試験が開催できるようになった。		

2. 国際大会での成果

大会成績	銀メダル3、銅メダル1。日本代表全員がメダルを獲得するとともに、参加40か国中総合成績で5位という快挙を遂げた。
その他交流等で得られた成果	大会開催国のロシアはもとより、参加各国の文化に直接触れることで、参加生徒の視野も広がった。また、参加生徒どうしが国をこえてメールなどでの情報共有も昨年と同様、活発になされている。

3. 広報普及活動の実績

高校の先生方がポスター、パンフレットを見て、生徒への受験を熱心に勧めるようになってきた。また、新聞社などのマスコミも選手のインタビュー記事を掲載してくれるようになった。

コンテスト名：科学地理オリンピック日本選手権

4. 当年度計画の達成状況、得られた効果（当年度特有の取り組みがあれば併せて記載）

- ・今年度の日本代表選手の選出にあたって、マルチメディア試験（一次選抜）、記述式試験（二次選抜）、フィールドワーク試験（三次選抜）の成績結果をもとにした。とりわけ、昨年度より三次選抜試験を導入したことで、これまで弱点であったフィールドワーク能力の向上が図られたほか、高校の先生方にとっても、高校での地理授業でのフィールドワークのモデルを示すきっかけとなった。
- ・強化合宿では、フィールドワーク試験（茨城県守谷市と同県つくば市）と、記述試験（埼玉県草加市）の対策に分け、選手たちの居住地から日帰りできる範囲で、2回に渡って実施した。世界大会でのチームリーダー経験を持った日本人の委員とともに、ネイティブの、実際に国際大会の採点にもかかわった委員が前面に立って指導をしてくださったので、ポイントが整理しやすく、好評であった。銀メダルを獲得した選手は、例年以上にフィールドワーク試験の結果が良好で、合宿の成果が出たといえる（国際地理オリンピックは、英語での出題・解答）。

5. 前年度評価時のコメントへの対応状況

- ・国内大会へのさらなる参加者の増加については、広報活動などにより、達成できたと考える。
- ・世界大会での複数のメダルの獲得も、強化合宿の成果として成し遂げることができたと考ええる。
- ・フィールドワーク対策については、強化合宿によりある程度の成果を収めたものと考ええる。



カルチャール・セッション終了後の記念写真



IGUモスクワで受賞後の記念撮影

7. 地学オリンピック

IESO 国際地学オリンピック

年度		H25年度 実績 (2013年)	H26年度 実績 (2014年)	H27年度 実績 (2015年)	H28年度 予定 (2016年)
国際大会	開催地	インド(9月)	スペイン※3(9月)	ブラジル※4(9月)	日本(8月)
	参加国・地域数	23	21	22	
	参加者数	90名	82名※5	85名※6	
	日本代表 成績 (4名)	金 1 銀 3	金 3 銅 1	金 1 銀 1 銅 2	
	国別順位※1	3位	2位	5位	
	研修・教育	<ul style="list-style-type: none"> ●2013年5月英語による実技研修・選手選抜(10名) ●通信研修5-8月(6名) ●8月合宿研修(4名) (箱根(神奈川県立生命の星・地球博物館)) 	<ul style="list-style-type: none"> ●2014年3月英語による実技研修・選手選抜(10名) ●通信研修4-8月(6名) ●6月合宿研修(6名:秩父)、 8月合宿研修(4名:筑波大学) 	<ul style="list-style-type: none"> ●2015年3月英語による実技研修・選手選抜(10名) ●通信研修4-8月(6名) ●6月合宿研修(6名:秩父)、8月合宿研修(4名:筑波大学) 	<ul style="list-style-type: none"> ●2016年3月英語による実技研修・選手選抜(10名) ●通信研修4-8月(4名) ●5月合宿研修(4名:秩父)、8月合宿研修(4名:筑波大学)
国内大会	決定試験	10名(3月)	10名(3月)	2016年3月	2017年3月
	本選 参加者	69名(3月) ＜筑波研究学園都市＞	63名(3月) ＜筑波研究学園都市＞	60名(3月) ＜筑波研究学園都市＞	2017年3月 ＜筑波研究学園都市＞
	日本地学オリンピック 予選 参加者	1462名(12月) ＜全国68会場＞	1868名(12月) うち女子の人数 471名 ＜全国77会場＞	1748名(12月) うち女子の人数 427名 ＜全国78会場＞	12月 ＜全国の会場＞
広報・普及啓発 その他活動		<ul style="list-style-type: none"> ●日本地球惑星科学連合2013大会(幕張)出展(5月) ●地質情報展(仙台)出展(9月) ●AO入試(広島、東北、筑波、東工大、北海道、大阪) ●ニュースレター“チオリン”2回発行 ●広報DVD/チラシ改訂 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本地球惑星科学連合2014大会(横浜)出展(5月) ●地質情報展(鹿児島)出展(9月) ●AO入試(広島、東北、筑波、東工大、北海道、大阪) ●ニュースレター“チオリン”2回発行 ●広報チラシ改訂 ●ジュニアセミナー開催(中学生対象:東京)(8月) ●OB会実施(5月) 	<ul style="list-style-type: none"> ●日本地球惑星科学連合2015大会(幕張)出展(5月) ●地質情報展(長野)出展(9月) ●AO入試(広島、東北、筑波、東工大、北海道、大阪) ●ニュースレター“チオリン”1回発行 ●ジュニアセミナー開催(中高生対象:東京)(7,8,12月計11回のべ98名) ●OB会実施(5月) ●HP改修 	

※1: 国際大会では個人成績のみが公表され、国別順位については公式な発表がありません。個人成績をもとに独自に作成した国別順位であり、公式資料ではありません。

※2: 東日本大震災の関係で日本開催を返上。※3: アメリカからスペインに変更(2014年3月)。※4: ロシアからブラジルに変更(2014年11月)。

※5: 三重県から参加の本選出場生徒1名をゲスト学生としてスペイン大会に引率。(成績: 銀メダル相当)

※6: 三重県から参加の本選出場生徒1名をゲスト学生としてブラジル大会に引率。(成績: 銅メダル相当)

第10回国際地学オリンピック・日本大会

- 2016年8月20日(土)～8月27日(日)
三重県 (主会場 三重大学 (津市))
 - 20日 到着
 - 21日 開会式
 - 22日 研修(伊勢神宮・忍者屋敷等 訪問)
 - 23日 筆記試験(三重大学)
 - 24日 実技・筆記試験(津市近郊・三重大学)
 - 25日 国際協力野外調査(熊野市)
 - 26日 同発表、さよならパーティー
 - 27日 閉会式、出発



国際協力野外調査(七里御浜)



同(鬼ヶ城)

- 30カ国 高校生約130名参加(代表約120名、ゲスト生徒約10名)
日本 (代表4名、ゲスト生徒5名)



日本代表(いずれも高3対応)
笠見(広島学院:広島)
神原(府立北野高:大阪)
坂部(海陽中等教育学校:愛知)
廣木(海城高校:東京)

ゲスト生徒(いずれも高3)
大小田(広島学院:広島)
小山(武蔵高:東京)
山川(開成高:東京)
柵木(県立四日市高:三重)
松山(県立伊勢高:三重)

- 予算:約5900万円 (文部科学省支援 2500万円)
- 組織委員会:委員長 平 朝彦 氏 (JAMSTEC 理事長)
副委員長 鈴木英敬 氏 (三重県知事)
副委員長 駒田美弘 氏 (三重大学長)



地球ニンジャ
マスコットキャラクター

三重大会は過去最多
参加国数になるよ！！

参加エントリー数(含地域) 30ヶ国

オーストラリア オーストリア バングラデシュ ブラジル カンボジア
中国 チェコ フランス ドイツ インド インドネシア イスラエル
イタリア 日本 カザフスタン ナイジェリア ノルウェー パキスタン
フィリピン ポルトガル ルーマニア ロシア 大韓民国 スペイン
スリランカ トルクメニスタン 台湾 タイ ウクライナ アメリカ

選手スケジュール8月

- 21日(日) 開会式(三重大学)・見学(伊賀上野)
- 22日(月) 見学 (伊勢神宮・伊勢志摩)
- 23日(火) 筆記試験 (三重大学)・見学(MieMu)
- 24日(水) 実技試験 (屋外・三重大学)
- 25日(木) 国際協力野外調査・地元高校生との交流(熊野市)
- 26日(金) 国際協力野外調査発表会(三重大学)
- 27日(土) 閉会式(三重大学)



主催: 国際地学オリンピック2016組織委員会
NPO法人地学オリンピック日本委員会
共催: 公益社団法人日本地球惑星科学連合, 三重県,
国立大学法人三重大学
国立研究開発法人科学技術振興機構



三重県の高校生の協力

- ・高校生実行委員会
三重県内12高校
60名の生徒
開会式・閉会式
伊賀上野・三重宣言
- ・県立 宇治山田商業高校
60名の生徒: 伊勢神宮
- ・県立 木本高校
30名の生徒
国際協力野外調査(熊野)
- ・県立 白子高校
ブラスバンド(15名)
開会式・閉会式
- ・「地球ニンジャ」
三重県の高校生
が製作